

3-4 防災技術展

3-4-1 防災対策技術展の後援

防災に関する技術や機器は、その目的が限定的であるために開発が容易ではない。また開発されたものの宣伝も市場の小ささからあまり行われていない。しかし、これらは社会全体の防災力向上のために有用である。このため、地方公共団体や民間企業、さらには NGO や一般家庭など、多くの人々にこれらの技術や機器を知らしめることにより、マーケットを広げることが重要である。

技術や機器を世間に公表する機会としては、東京や神戸などで防災技術や機器の展示会があり、阪神淡路大震災以降何度も開催されている。

アジア防災センターは、神戸市が中心となって、毎年1回神戸と横浜で開催される震災対策技術展に後援団体として、第4回目の震災対策技術展より参加している。今後も引き続き支援していく。

表 3-4-1 災害関連展示会の概要

場所	展示会名	会期	来場者数	出展社数	小間数
東京	東京国際消防防災展	1998.6.4～6.9	214,064	260	1,380
	災害救助フェア 2000	2000.4.20～4.23	51,668	70	900
横浜	第6回震災対策技術展'02	2002.2.14～2.15	5,636	125	128
	第7回震災対策技術展'03	2003.2.6～2.7	6,629	96	157
	第8回震災対策技術展'04	2004.2.5～2.6	7,539	92	110
神戸	第1回震災対策技術展'97	1997.1.16～1.17	4,264	130	230
	第2回震災対策技術展'98	1998.1.13～1.14	3,220	115	215
	第3回震災対策技術展'99	1999.1.13～1.14	3,830	120	135
	第4回震災対策技術展'00	2000.1.27～1.28	3,479	59	81
	第5回震災対策技術展'01	2001.1.18～1.19	3,541	50	72
	第6回震災対策技術展'02	2002.2.14～2.15	1,550	25	25
	第7回震災対策技術展'03	2003.1.30～1.31	3,336	43	48
	第8回震災対策技術展'04	2004.1.29～1.30	3,906	35	40

3-4-2 防災技術のインターネット仮想展示場の閉鎖

アジア防災センターは、防災技術のデータベースを構築し、インターネットを使っていつでも見ることができる防災技術の仮想展示場を、2001年1月17日より開催している。これは、防災機器・技術の普及促進に少なからず貢献しているものと考えられる。ただし、この仮想展示場は情報の提供だけになっているため、実際購入し使われた際、当初から謳われている性能が発揮出来ているものかは、フォロー出来ていない。まして、使用によって、人・物に危害が加えられるような機器・技術であれば、市場に出すこと自体が論外である。今後もしろいろな機器・技術が誕生し、当仮想展示場に情報を掲載し、世の中に公表することが出来るが、情報提供とはいえ、性能確認・性能保証が出来ないものを情報提供することは、公的機関の社会的責任に背くものと考えられる。今回、熟慮した結果、インターネットの仮想展示場を閉鎖することを決定した。今後、防災担当大臣主催による「企業と防災に関する検討会議」で報告された防災機能を評価する仕組みが出来上がり、機能評価された機器・技術が市場に出回れば、仮想展示場を復活させ、そういった機器・技術を掲載していきたい。